

## 小学校の教室 - こどもの学校生活環境を考える -

春は新しい生活がスタートする時期です。新しい学年がはじまる年度始めは色々と感じることがあります。去年の春、小学校3年生になった娘の授業参観にいった時のことです。42人の子どもたちが、壁ぎりぎりまで机を並べて座っている教室の、窮屈そうな様子に驚きました。8m角の教室に7x6席の配置です。コロナ禍のため、一つ一つの机の間隔が空けられていますが、ソーシャルディスタンスというほど距離はとれていません。中途半端にできた隙間は、人が通る十分な幅がとれず、自由に室内を動き回るのも難しそうです。コロナ禍では密な状態になってはいけなさと日々子どもたちは言われているのに、大人たちが与えている環境がこのような状態だということに矛盾を感じずにはられません。この少子化の時代に、なぜ子どもたちを一つの教室に詰め込まなければならないのでしょうか。

日々の仕事の中で、どのような環境が居心地よくだろうかと考えることが多いですが、施設も住まいと同じように心地よい場所であることが大切だと思っています。日当たりのよさや風通し、安定した室内環境、屋内空間を心地よくするための要素は様々ありますが、使用する用途や人数によって、その環境は左右されます。教室の使い方は、ただ、授業で先生の話聞くだけでなく、隣の人と相談をしたり、グループ学習をしたり、色々な学びの形があるはずです。休み時間には、教室の中で遊ぶこともあるでしょう。もちろん給食もたべます。それらの活動をする部屋として使うためには、ある程度余裕をもった広さが必要だと思のですが、娘のクラスでは1人あたりの床面積が1.52㎡であり、保育所の幼児の必要床面積1.98㎡よりも小さくなっています。建物の増築や改修をしなくても、児童数減少でできた空き教室を利用

シクラス数を増やせば、この状況は改善されます。今すぐにも、この教室の環境を変えてほしいと思いました。

令和3年度から、小学校の学級編成が全学年で1学級40人から35人とする法律が施行されました。(1年生は既に35人学級制導入済み。)ただし、5年かけて毎年度1学年ずつ取り入れていくという段階的な計画になっています。これは、学校教室の確保や、教員の人数の確保が難しいなどの問題によるところが大きいようです。自治体によっては、独自に予算をつけて全学年35人学級制を取り入れているところもありますが、あくまでも自治体の裁量によります。現在私が住んでいる地域では、令和3年度に小学3年生だった娘は、6年生になっても40人学級のままで卒業することがわかりました。去年の春に感じた違和感は、そのまま持ち越して4年生をむかえました。

昨年からは、担任や校長、保護者同士で少人数学級制について話をする機会をもち、子どもたちに意見を聞いたり、みんなで話し合ったり、一緒に考えたりすることをはじめました。行政への働きかけをしている人たちもいます。これからも、子どもたちの豊かな生活や育ちのために、私たちができることを探っていこうと思っています。

南 知香子

